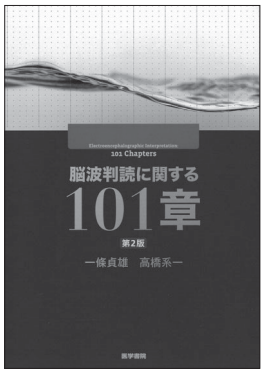
書評



一條　貞雄，高橋　系一●著

『脳波判読に関する 101 章　第 2 版』

書評者
越野　好文（金沢大名誉教授／粟津神経サナトリウム特別名誉顧問）

1998 年に，一條貞雄先生は臨床の現場で出会う脳波がどのような意味を持つのか，それをどう解釈するのかに重点を置いて書かれた『脳波判読に関する 101 章』を私たちに届けてくださった．長年にわたる臨床脳波判読のご経験から生まれた，臨床にすぐに役に立つ，実にわかりやすいご本であったが，このたび 10 年ぶりに改訂された．手にとってまず気がついたことは，初版も読みやすい本ではあったが，第 2 版は文字サイズの工夫と色刷りの活用で，さらに一段と見やすくなったことである．これまで脳波になじみのなかった人も興味をそそられることであろう．

本書では脳波判読の基礎から臨床までが，豊富な，そして貴重な脳波図によって具体的に示されている．読者は脳波に親しみを覚えるに違いない．内容としては，脳波判読に関する解剖・神経生理，脳波の記録方法・賦活法・アーチファクト，正常・異常な脳波波形，小児・思春期および老年期の脳波，てんかんと関連した疾患および意識障害など各種疾患の脳波，薬物による脳波，睡眠脳波，さらに誘発電位・脳電位分布と脳磁図が取り上げられている．第 2 版では，新しい脳波図も加わり，さらに充実した．

臨床脳波は実用の面からは完成の域にあると思えるが，それでも 10 年の間に関連領域において，いくつかの動きがあった．2001 年，2006 年にてんかん発作型の新しい国際分類が提案された．本書では，てんかん発作型，およびてんかん症候群の分類が紹介され，それに伴い「てんかんと脳波所見」の章の構成が変更された．また 2007 年，アメリカ睡眠学会から新しい睡眠ポリグラフィの記録手技と，睡眠段階判定基準が提唱されたことから，睡眠ダイアグラムも増ページされた．

1999 年に変更・追加された国際臨床神経生理学会の「脳波用語・解説」（日本語版）が新しく巻末に追加された．Brain wave, Build up, Evoked response, Phantom spike-and-wave など，従来普通に使用されていた用語のうちかなりの数のものが，現在では使わないほうがよい（use discouraged）とされた．国際的に共通の用語を用いることは研究の基本であるが，これらの用語になじんでいたものには時代の変化を感じる．

脳の形態的検査である画像診断と機能検査である脳波は，互いに補い合ってこそ，臨床的な威力を発揮できる．脳波は苦手だと感じている人が少なくないのではないかと思うが，脳波の判読は，基本を学べば決して難しいものではない．ここに脳波の判読力養成に的を絞った本書の出番がある．研修医，および精神科・神経内科・脳神経外科・小児科・総合診療科の専門医をめざす医師には，まず，本書を通読し，脳波に興味を持ってもらいたい．また既に脳波判読に従事している先生には知識の整理に役立ち，臨床で必要になった場合にその都度関係した章を精読することで脳波判読力に磨きがかかることが期待できる．

B5　頁 248　2009 年　医学書院刊
定価 5,250 円（本体 5,000 円＋税 5%）
[ISBN978-4-260-00981-2]

© IGAKU-SHOIN Ltd, 2010

2026/09/17 13:09:24